

## 国上寺

弥彦明神のお託宣によって建立された寺で、標高 313m の国上山の中腹にある真言宗の寺院。

和銅 2 年（709 年）創建の、県内最古の名刹で、境内には本堂のほか、客殿、六角堂、大師堂、一切経蔵、鐘楼堂、宝物殿などの重厚な建物が建ち並ぶ。平成 21 年（2009 年）には、開山 1300 年を迎えた。

格式としては、孝謙天皇より御宗にて正一位を賜り、北海鎮護仏法最初の霊場として信心のより所とされてきた。御本尊様は上品上生の阿弥陀如来であり、古文書等によれば、行基菩薩の御作婆羅門僧正の御開眼にして、聖武天皇の御后光皇后より賜った霊仏であると伝えられ、現在は、子年（12 年一度）の開帳としている。

開山当初は修験道だったが、時代の権力者の庇護により改宗され、法相宗・天台宗・真言宗醍醐派と転じ、現在では真言宗豊山派に属している。

戦国時代には、聖徳太子が、ここで彫刻したと伝える当山の千手観音（客殿に安置）を信心された上杉謙信公により格別の配慮を賜った。祈願所として十万石の格式をいただき、七堂伽藍を建立された。

往時には国上山山中に二十一ヶ寺、県内外を含め 130 有余ヶ寺の末寺を有し、常時千人以上の修行僧を置き御祈祷所として隆盛を極め、良寛や「天地人」の直江兼統ともゆかりがあるほか、源義経・弁慶や酒吞童子などの伝説も残っている。

度重なる焼き討ちあいながらも、現在でも本堂をはじめ客殿（講堂）、六角堂、一切経蔵、宝物殿、鐘楼堂、鎮守堂、庫裡、五合庵ならびに菩むした石仏など数多く有し、毎日多くの参拝者で賑わっている。現在の堂塔は約 300 年前後に建立されたもので、四度目の再建にあたる。

【問い合わせ】 TEL.0256-97-3758 国上寺 【所在地】 新潟県燕市国上 1407

